

共同礼拝

2024年6月30日(日) 午前10時30分
午後4時

司式 牧師 姜 徑米 高橋和人(夕)

奏楽 市橋佳子 本多友子(夕)

前 奏

招 詞 詩 編 100編1～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 113編1～3節 (旧954)

使徒言行録 9章1～9節 (新229)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 52

説 教 「サウロの回心」 牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 354

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

6月の祈り

教会が教会の頭であるキリストのもとに一つにまとめられるように。

キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、信じて、約束された聖霊で証印を押されたことを表すことができるように。

礼拝がまことに主をあがめるものとなるように。

信仰の継承がなされ、教会学校、幼稚園等教会に集う子どもたちに信仰の導きと祝福があるように。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

世の力の迫る中であって、恵みにより救われ、神の御支配に与る思いが大切にされるように。

教会が力づけられ、上にあるものを求めて歩む歩みを実現できるように。

同じ信仰によって南支区に立てられた諸教会が共に主の体として、祈り支え合うために力付けられるように。体調不良の兄弟姉妹が守られるように。

「サウロの回心」 姜 徑米

使徒言行録 9章1～9節

今まで歩んできた人生が180度の大転換をすることを、回心と言います。「かいしん」という言葉には、「悔いる」という字を書く、「悔心」もあります。それは、自分のした悪いことを悔いて心を入れ替えるという意味ですが、今言っている「回心」は「回る」という字を使います。心の方向がぐるりと回転することです。

使徒言行録9章には、180度の回心の物語が語られています。サウロという人の回心です。この人は、1節にあるように、「主の弟子たち」教会に連

なる信仰者、クリスチャンを「脅迫し、殺そうと意気込んで」いた人でした。キリスト教信仰に反対し、迫害していた人だったのです。

そのサウロが主イエス・キリストと出会い、主イエスを信じる者になりました。このサウロこそ、後の大伝道者パウロです。彼は「異邦人の使徒」と呼ばれています。主イエスの福音がユダヤ人だけに与えられたものではなく、信仰によってすべての人々がそれにあずかることができるということを明確にし、異邦人たちの教会を各地に築いていった大伝道者です。

彼は何故回心したのでしょうか。そのことを知るヒントになるのは、彼が聞いた声です。強い光に照らされて地に倒れた彼は、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」という声を聞いたのです。あなたはわたしを迫害している、わたしを苦しめ、妨害し、傷つけているという声を彼は聞いたのです。サウロは「わたし」という方と出会ったのです。その方が彼の前に、彼の道を遮るように立ちはだかったのです。

彼はここで、教会を迫害することは間違っているという真理を示されたのではないのです。天からの強い光と共に語りかける「わたし」という方と出会ったのです。そして、自分その方に敵対し、その方を迫害しているのだと知らされたのです。

信仰とは、私たちの前に立ちただかり、「なぜわたしを迫害するのか」と問われる主イエスとの出会いです。罪人であり、神様に敵対している私たちとの間に、「あなたとわたし」という関係を、交わりを築こうとしておられるのです。その交わりによって私たちは、自分の力で生きる歩みを打ち砕かれ、主イエスの恵みによって新しく立てられるのです。